

今年度も折り返しの時期を過ぎました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。今回の茶畑 SR times では2015年度 SSH 講演会についてお伝えしたいと思います。

9月8日に2学年の生徒を対象にSSH講演会が行われました。今回は外務省外交政策調整官の齋藤敦さんに講演をしていただきました。

齋藤さんは、外交とは「世界と仲良くする」「日本のためになる外交をする」という2つのことで、外交官は「JAPANを主張する」つまり、日本を主語に世界を相手に交渉する役目を担っているのだとおっしゃっていました。その交渉にも課題を見つけ、情報を集め、分析し、企画を作って、交渉するという過程が含まれているそうです。そして、ときどき私たちが耳にする首脳会談というのは、その過程をくり返し行っても交渉がまとまらないときの最終手段であるとのことでした。



続いて日本での具体的な仕事として、戦争後の復興やヨーロッパ諸国との関係の調整などについて紹介していただきました。外国で起きている問題が今までと少し違った見え方になるお話でした。

また、外国での仕事として、スイスとインドネシアでの経験を対比的に話して下さいました。スイスには国際連合の事務局があったり、世界貿易機関の本部があったりと、国際都市としての側面があります。そのため、そこでの仕事は世界を相手に日本の代表として話をするなど、私たちの抱く「外交官らしい仕事」というイメージに違わない物であったそうです。一方、インドネシアはASEAN(東南アジア諸国連合)の中心としての役割を担って

はいますが、内部では巨大な貧富の格差があるという国です。そこでは、日本をモデルとしてもらい、格差問題を解決していくという仕事をしていたそうです。学校に井戸を作る事業など、少々意外なことにも携わったということでしたが、その中でも言葉の壁によるコミュニケーションの問題には苦労したそうです。

そして、現在は日本の外交政策全体の企画、日本の安全保障政策の企画を行い、首相、外務大臣とともに世界中で仕事をしているそうです。その仕事の中

での重要なポイントとして世界と仲良くすること、日本を売り込むこと、難しい仕事に世界で取り組むこと、という3つのことを教えていただきました。

それに加えて、もう1つ重要なこととして、「日本から飛び出す」ということを強調しておられました。海外への留学者数は昔と比較すると減少しているそうです。そのような状況の中、齋藤さんは次のようにおっしゃっていました。「まずは行かなくてもいいから、外国を知ってほしい。もしもっと知りたくなったら、外国語を学んで外国へ行けばいい。そして、その外国で学んだことを是非日本に生かしてほしい。」

最後に、齋藤さんは「新しいことに積極的に挑戦し、自分がやりたいことを見つけ、それをとことんやること



が大切だ。」とおっしゃっていました。自分が夢中になれる何かを見つけ、ひたすらにそれに打ち込むことが将来的な自分の経験値として蓄積され、いつか役に立つのだと感じました。将来についての視野が一回り大きくなるような講演でした。

〈感想〉

・外交官という職業は耳にしたことがあっただけで、よく知らなかった。しかし、そのような大変な仕事に就いている方が本校OBであることを誇りに思った。また、活動内容も興味深かった。最後に、自分のやりたいことを早く見つけた方が良いとおっしゃっていたので、私も早く見つけようと思った。

・齋藤さんのお話を聞いて以前よりも世界について関心を持つようとする気持ちが強くなった。一高生はもっともっと視野を広げて世界に出ていくべきだと思う。そして、そのためには英語力は大前提であるということを改めて実感した。読む・書くだけではなく、話せる英語力を今のうちから身につけていけばいいと思う。また、講師の方の現役時代の話も大変興味深かった。将来に向けて非常に意識を高めることができた一日だったと思う。

・今までは外交官と聞いても具体的にどんなことをしているのかよくわかっていなかったが、一日の仕事の流れなどを紹介してくださったのでイメージをすることができた。外国の様々な国と政策や貿易のことなどいろいろな事柄を決定していくという難しそうなことでも、その根底となる部分には一緒に昼食をとったり、協力関係を築いたりといった、他者とのコミュニケーションが一番大切なのだと思います。「日本」という大きなものを背負って働くというのはとても大変だろうと思ったが、それと同時にとてもやりがいがあり刺激がある仕事だと思った。

・外交官として現場でどのような体験をしたことがあるのか、そういったことを聞きたかった。

・今回の講演会で、世界の国と身近に働く方の貴重なお話を聞くことができたと思う。世界の国に住んだり、接したりされている方からのお話だったため、日本の世界の国との関わり方について知ることができた。世界の国々と協力しないと、日本は活躍できない時代であることが分かった。自分たち高校生が知らない部分で世界との関わりがあるので、もっと多くのことを知って、もっと身近にとらえられるようになりたいと思った。日本だけでなく、もっと外の世界について興味を持っていきたいと思えた講演会になった。

・私は今まで、将来海外に行くということは考えてもみななかったが、今回の講演会を通して自分の可能性を試して、海外にまで自分の夢を広げてみたいという気持ちになった。今の自分は、まだ明確な将来の目標を持たずに、なんとなく日常を過ごしてしまっている。これから自分のやりたいことを探し、世界を舞台にして活躍できるようになるために毎日を考えながら過ごしていきたいと思った。

・東日本大震災における、外国からの多くの支援物資が届くことの裏に、外務省はじめ多くの人に関わっていたということを、改めて実感した。また、外国との関わりの中で、日々のニュースでしか見たことがないようなことがどのような手法でなされているかがよくわかった。これまでより深く、国同士の関わり合いや、大使館での相手国に対する接し方などを知ることで、今後外交のニュースを見るうえでの考える糧になると思った。自分でも興味を持っていろいろ調べようと思った。